

文化財の保存・活用と世界へのプロモーションについて

【担当省庁】文化庁・国土交通省

明日香村における取組

(現状・課題)

①世界遺産「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」登録の推進

明日香村の文化財は、日本国の国家形成過程がわかる資産である。その特異性をわかりやすく整理し、資産の公開とあわせ、世界に広く認めてもらう機会を増やしたい。

本村では、平成27年に認定された日本遺産「日本国創世のとき～飛鳥を翔た女性たち～」等により魅力発信に努めてきたところ。「飛鳥・藤原」が世界文化遺産に登録されることにより、世界から注目され、住民が誇りに思うことで、構成資産を次代に引き継ぐことができると期待している。

「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」

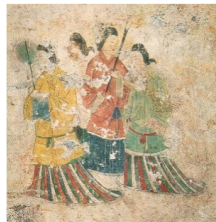
東アジアとの交流を通じ、中央集権国家の形成過程を示す飛鳥宮跡、藤原宮跡の宮殿跡を中心とした仏教寺院跡、墳墓などからなる考古学遺跡群。

平成19年	「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」暫定リストに記載
令和2年3月	推薦書素案を文化庁に提出
令和3年3月	推薦書素案を文化庁に再提出
令和4年6月	推薦書素案を文化庁に再提出
令和5年	推薦書素案を文化庁に再提出(予定)

②「国宝高松塚古墳壁画」保存公開施設の早期供用の開始

令和4年3月に文化庁において基本構想が策定され、令和11年度までの供用開始を目指すことを示していただいたところ。建設にあたっては、終末期古墳や古墳壁画を核として、日本国の国家形成の証や大陸文化との交流を理解・体感できる展示を期待するとともに、文化観光に貢献できる施設を期待している。

施設が検討されている国営飛鳥歴史公園高松塚周辺地区は、鉄道駅に近く、「明日香まるごと博物館」のゲートウェイの位置にある。飛鳥保存の意義が理解でき、歴史的風土を創造的に活用した「明日香まるごと博物館」の総合案内機能を併せ持つ施設として位置づけ、省庁間を超えた一体的な整備を期待している。



③文化財の保存・活用を通じた文化観光のさらなる推進

明日香村に点在する文化遺産の保護に向けて、創造的な活用を図り、歴史や文化についての理解を深める機会を充実させ、これに国内外からの来訪者誘致を促進することにより、文化の振興、観光の振興、地域の活性化の好循環を生み出すことを目的として、「明日香まるごと博物館地域計画」を策定し、多様な取り組みを展開している。現在は我が国最後の飛鳥時代の天皇陵として精緻な横口式石槨を有する中尾山古墳の保存・活用に向けた基本計画を策定中である。しかし世界遺産登録を目指す中、未だ整備が必要な箇所も多く、価値を体感できる視点場の整備等も不可欠である。

来訪者へ自然や文化、歴史遺産等の知識や情報を一方的に「伝える」のではなく、「伝わる」ための手法として、プロガイドや子ども学芸員の養成など地域住民も参画したインタープリテーション戦略の整備が急務である。わかりやすく伝達するための取組みや関連する施設整備に係る予算措置についてもお願いしたい。



ガイド養成風景

【関係市町村】橿原市、桜井市、高取町

国にお願いすること

本村における文化財の保存・活用と世界へのプロモーションは、我が国の国家形成の中心的地域であった飛鳥地域の重要性を鑑み、国家的見地から推進をお願いしたい。特に、下記3点については、早期の事業化及び支援・指導を継続してお願いしたい。

①世界遺産「飛鳥・藤原の宮跡とその関連資産群」登録の推進

令和8年の登録に向けて、令和6年度中の国内推薦を願いたい。そのために必要な指摘や助言、積極的な支援を願いたい。

②「国宝高松塚古墳壁画」管理活用施設の早期供用の開始

ゲートウェイ機能を備える省庁間を超えた一体的な整備を願いたい。

③文化財の保存・活用を通じた文化観光のさらなる推進。

文化観光の推進や遺跡整備・活用のための支援(国庫補助金の確保)、飛鳥宮跡等の史跡指定・公有化の促進。インタープリテーション戦略の推進に係る組織づくりや関連施設整備などへの支援を願いたい。

【担当部署】 明日香村文化財課